

シンポジウム | 特別講演

学術・在宅歯科診療検討合同シンポジウム

在宅（訪問）歯科診療を科学する

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)、菅 武雄(鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座)

Fri. Jun 22, 2018 9:40 AM - 11:10 AM 第1会場 (8F 大ホール)

【水口 俊介先生略歴】

1983年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1987年 同大学大学院歯学研究科修了・歯学博士
1989年 同大学歯学部高齢者歯科学講座助手
2001年 同大学大学院口腔老化制御学分野講師
ロマリング大学歯学部客員教授
2006年 同大学大学院高齢者歯科学分野助教授
2007年 同大学大学院全部床義歯補綴学分野教授
2012年 同大学大学院高齢者歯科学分野教授
日本咀嚼学会理事長
日本義歯ケア学会理事長
日本老年歯科医学会常任理事，専門医・指導医
日本補綴歯科学会理事，専門医・指導医

【菅 武雄先生略歴】

1990年 鶴見大学歯学部卒業
1990年 鶴見大学歯学部補綴学第一講座・臨床研修医
1991年 鶴見大学歯学部補綴学第一講座・診療科助手
1991年 鶴見大学歯学部補綴学第一講座・助手
1996年 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座・助手（移籍）
2010年 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座・講師
日本老年歯科医学会 理事，指導医・専門医，摂食機能療法専門歯科医師，在宅歯科診療等検討委員会委員長
日本補綴歯科学会 指導医・専門医
日本咀嚼学会 評議員・編集委員会委員
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 評議員
日本口腔リハビリテーション学会 評議員
介護支援専門員，横浜市介護認定審査会委員

【抄録】

要介護認定者数は平成12年の218万人から平成27年には3倍の608万人となっており，いわゆる在宅診療のニーズもますます増えている。また高齢者の残存歯数は増加しており，う蝕や歯周病など口腔内はますます複雑になっている。必然的に訪問歯科診療のニーズは高まるが，その現場での臨床判断に関するエビデンスは十分とはいえない。

本日のシンポジウムでは，まず基調として本学会の在宅歯科診療等委員会委員長の菅 武雄先生に，日本歯科医学会と本学会のメンバーで行われている在宅歯科医療に関する検討会の結果報告を含めた今後の概観を述べてもらい，福島先生にはご専門の立場から，今後問題になる高齢者の根面う蝕や歯磨剤のフッ素濃度の変更やサホライドの再評価等のUp to Dateな話題について解説していただく。そして猪原先生には歯科訪問診療の経験が浅い方々への有用な情報提供をしていただく。本シンポジウムが訪問歯科診療の適正化と活性化に貢献できればと考える。

[S1-2]SDF法による高齢者根面う蝕のマネジメント

○福島 正義¹ (1. 福島県昭和村国民健康保険診療所／新潟大学歯学部)

【略歴】

1978年 新潟大学歯学部卒業
1982年 新潟大学大学院歯学研究科修了
1982年 新潟大学助手・歯学部附属病院（第1保存科）
1986年 新潟大学講師・歯学部附属病院（第1保存科）
2001年 新潟大学助教授・歯学部附属病院（総合診療部）
2004年 新潟大学教授・医歯学系（歯学部口腔生命福祉学科）
2018年 福島県昭和村国民健康保険診療所歯科長
日本老年歯科医学会終身認定医・終身指導医・理事
日本歯科保存学会専門医・指導医・理事
日本接着歯学会終身認定医・前会長
日本歯科理工学会DMSA
日本歯科審美学会認定医・常任理事

平成28年歯科疾患実態調査によれば、高齢者の現在歯数の増加とともに歯周疾患とう蝕が増加している。とくに口腔清掃の行き届かない要介護高齢者、頭頸部腫瘍の放射線治療に伴う唾液腺障害や内服薬の副作用による口腔乾燥症の高齢有歯顎者などでは全顎的に根面う蝕が多発し、短期間で歯冠破折と咬合崩壊を招く場合がある。このような多発性根面う蝕の対処は在宅（訪問）歯科診療の現場でも深刻な問題であろう。根面う蝕は視診によるう蝕検知が歯冠う蝕に比べて困難である。修復処置の場合には、窩洞形成中に歯肉出血させたり、原発う蝕を取り残しやすく、窩洞外形の設定に迷うことがある。

本講演では日本歯科保存学会による根面う蝕の治療ガイドラインの解説に加えて、わが国で昭和40年代に乳歯ランパントカリエスの進行抑制に多用され、最近では海外で根面う蝕の一次予防材料として高く評価されているフッ化ジアンミン銀(SDF)を活用した根面う蝕のマネジメントを紹介する。